Japanisch-Deutsche Gesellschaft
Yokohama

Der Hafen

(港)

横浜日独協会会報

発行　２０１２．８．１（第10号）
事務局：〒223-0058 横浜市港北区新吉田東2-2-1-913
能登　崇　方
Tel & Fax 045-546-0801（新）
e-Mail tak_noto@yahoo.co.jp
会報編集責任者　大久保　明
e-Mail a-okubo1926@ttmy.ne.jp

フランクフルト独日協会と協力協定に調印

横浜日独協会　会長　早瀬　勇

１．　協定調印の背景

日独両国の成長拠点である横浜・フランクフルト（アム・マイン）両市は、昨年９月に都市提携協定を結び、企業間連携、自然環境保護、文化・芸術・教育などの分野で緊密な協力関係を一層進めることを相互に確認しました。

横浜市はすでに半世紀前からフランクフルトに独自の駐在員を置き、横浜に本拠のある日系企業の対独進出も盛んですし、ドイツからもボッシュやウインクレル商会などが横浜に進出し根を下ろしています。今年１月には、フランクフルトと羽田を結ぶ直行便も就航して、両都市は距離的にも接近しています。

２．　調印式の模様

わが横浜日独協会は、設立後２年に満たない若い組織ですが、先月（７月２日）フランクフルト市庁舎２階のカイザーザール（皇帝の間）において、かねてから提携をお願いしていたフランクフルト独日協会との間で協力協定 に調印しました。

翌７月３日の日刊全国紙フランクフルター・アルゲマイネ紙は、５０行をさいてゲンプト・フランクフルト独日協会会長、来賓の重枝フランクフルト日本国総領事と小職の挨拶を好意的に報じました。一方、地場大衆紙ビルト・フランクフルトは５頁文化面のトップ記事で、歴史的カイザーザールでフランクフルト副市長（着任２日目のフェルトマン新市長の代理）、市議会議長ヴァイラント氏、日本国総領事およびゲンプト会長が見守る中で小職が協定書に署名する瞬間の写真と記事を掲載しました。同紙は、日本で二番目に新しい横浜日独協会の片思いが、全独で二番目に古い歴史を誇るフランクフルト独日協会に受け容れられ、「５２人の神聖ローマ帝国の皇帝たちも祝福して下さっているようだ」との小職挨拶を引用しました。調印式とその後の市長招宴には、横浜日独協会会員１３０名を代表して能登・大久保両常務理事と神永理事が出席し式典参加者と親しく交歓しました。

なお調印式の模様は、同行したテレビ神奈川の「環境先進国ドイツに学ぶ」取材班が撮影いたしました。来る9月8日(月)夜、開局４０周年記念番組『明日の地球と子供たち』の一環としてch.3 で放映される予定です。

３．　調印後の動き

調印日の翌朝、フランクフルト独日協会事務局で、同正副会長、事務局長と当協会大久保常務理事、神永理事と小職が出席して、今後の共同事業方針を協議しました。まず当方から環境保全分野での中小企業間の技術提携や青少年の作文・絵画の交換を優先課題としたい旨提案し、先方からはそれと並行して芸術・スポーツ面でも横浜・フランクフルト両市民の交流を進めたいとの提案があり大筋で合意しました。

４．　横浜市民の折り紙による調印式参加

横浜市戸塚区の小田急分譲地自治会会員が、心をこめて折ってくださった金色の兜や紅白の折鶴は調印式の署名台に飾られ、沢山の人形のしおりは独日協会会員に配られました。横浜市民の日独友好への願いが伝わったと思います。

このたびこのような調印に至りましたことは、横浜日独協会会員皆様の日独交流への情熱の賜物であり、協会事業への積極的な参加意欲の現れであります。この紙面を借りて、横浜市、フランクフルト市ならびにフランクフルト独日協会の皆様の暖かいご支援・ご協力に対し、横浜日独協会を代表して厚く御礼申し上げます。（了）

（調印式）

法 人 会 員

株式会社文芸社　ウィンクレル株式会社　ボッシュ株式会社　フェリス女子学院大学
モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合　株式会社テレビ神奈川

横浜日独協会 ーフランクフルト独日協会友好協定書調印式

―今後の交流を期待し、祝福された調印式に参加して―

会員　能登　崇

2012年7月2日午前、両協会会員、市議会議員、日本法人会会員約50名がフランクフルト市中心街の旧市庁舎レーマーの Kaisersaal（皇帝の間）へ参集、ここでは神聖ローマ帝国新皇帝の戴冠式の祝宴が行われ、当時の皇帝52名の等身大の肖像画が壁に並んでいる。午前11時過ぎ愈々友好協定書調印式典が始まり、JDGY側からは早瀬会長、大久保、神永、能登各理事の４名が出席した。先ずシュタイン副市長が、「戦後素晴らしい復興を遂げた日独両国の協会が友好協定に調印することは誠に喜ばしく今後の発展を期待したい」と歓迎の辞を述べた。これを受けてゲンプト独日協会会長が、日独修好150周年の両市の都市提携協定に言及し、本日の友好協定の目的が「双方の協会が共同して相手国の理解と友好関係の発展を促進することである」ことを強調された。重枝日本国総領事の祝意に続き、JDGY早瀬会長が、全独で二番目に古い歴史を誇る当市独日協会と、日本で二番目に新しい横浜日独協会が友好協定に調印出 来たことは、「大願が成就し、この52名のカイザーも祝福してくれている」と、本協定締結に尽力された関係者への謝意と共に調印への喜びと今後への期待をこめて挨拶をされた。

その後フランクフルト市主催による歓迎会が催され、JDGY会員130名を代表して上記4名が出席、今後の協定目的実現への思いを新たにした。

◀（式典会場）

（両会長）▶

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

フランクフルト独日協会との共同事業打ち合わせ

会員　神永　晋

７月２日の両協会協力協定調印式に引き続いて、翌３日午前、市街中心部のロスマルクト１３番地に所在するフランクフルト独日協会事務局で、今後の事業方針を協議いたしました。先方からゲンプト会長、ツァイデニッツ副会長、クノープラオホ事務局長、当方から早瀬会長、大久保常務理事、神永が出席し、６月末に坂井運営委員主導の下、横浜市政策局ならびに経済局との間で協議された中小企業の連携について、その議事録を基に議論を進めました。フランクフルト独日協会からも賛同の意志が提示されましたが、一方、芸術・文化の交流を進めて、両地域の相互理解を深めることが重要であるとの提案があり、特に若い世代の交流についても言及されました。中小企業の連携と、芸術・文化交流による相互理解は、相補完するものであり、並行して進めることで合意され、具体的には、環境技術を中心として横浜地区の関心のある企業のリストを作成する一方、フランクフルトに隣接するオッフェンバッハ地区の商議所他への働きかけ等も含めて、作業を進めることとされました。同日、別途計画された、メッツラー銀行ヴィースホイ氏ご招待による、昨年９月にロート前市長と共に来浜されたヴァイラント市議会議長、早瀬会長、神永４名の昼食会で、上述の両協会の協議内容について両氏のご支援をお願いし快諾を得ました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

横浜市政策局・経済局と横浜日独協会　との懇談会

会員　坂井　啓治

平成24年6月28日　於　横浜市政策局会議室

〔横浜市側〕政策局国際政策課長　三枝忠裕氏

同担当課長　冨岡典夫氏、　経済局国際経済担当課長

杉山景一氏・同担当係長　西島朝子氏

〔横浜日独協会側〕黒崎副会長・向井運営委員・

高橋運営委員会オブザーバー・坂井同オブザーバー

〔目　的〕

日独交流促進の一環として、横浜市下の中小企業による、製品・技術の対独輸出・提携・企業進出など経済活動に、またその逆にドイツの中小企業による対日経済活動に対し、非営利団体であるJDGYが何らかの支援協力が出来るか、横浜市でのこの種の活動の実態はどのようになっているかを市から聴取し、横浜日独協会とフランクフルト独日協会との提携に資する事項の一つになるのかを見極める事にした。

〔会議結果〕

『営利団体によるこの種の仲介斡旋は実績はあるが、非営利団体からのものは珍しく、貴重な提案であり有意義と考える』と横浜市側から前向きの感触を得た。

〔経緯要旨〕

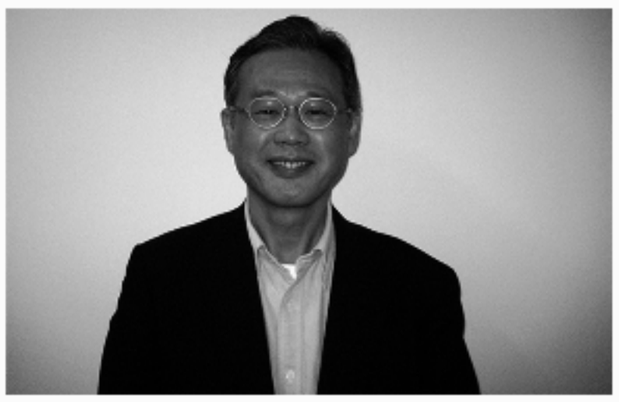
ドイツの中小企業（Mittelstand）がドイツ経済を支える基盤であると言われ、アジアへの進出が目覚しい中、日本の中小企業も優れた技術・製品を開発しているので、それぞれの Expertease /Talentを持ちドイツでの実務経験者を会員として抱えるJDGYが何らかの支援が出来るのではないかと提案したところ上述の感触をえた。

（なお上記企画にご参加いただけるJDGY会員の方はお申し出でいただければ幸いです）

5月例会

「芥川龍之介の世界」
宮坂覺前フェリス女学院大学学長のご講演を聞いて

会員　向井　稔


（向井氏）

ソフトな語り口で日本文学の巨匠・芥川龍之介の知られざるエピソードからその数々の作品の国際的な文学的位置付けなど広範囲に亘る実に高度な内容を平易なお言葉で講義して頂きました。全くと言っていいほど文学の世界とは縁のない私にも、宮坂先生の「世界」へ不思議なぐらい無抵抗に、違和感なく引き込まれていくことで、その講義の時間があっという間に過ぎてしまったという感じがします。

「芥川龍之介」という作家の名前を聞くだけで、おそらくその持つイメージに人それぞれに一種の共通項があり、「ぼんやりとした不安」が常に彼の内的世界を覆い、研ぎ澄まされた宗教的な精神性から「聖書を読みながら」最後には自分の命を自ら断つという「暗く・陰鬱な作家」であり、また高度で精緻な知性をもって「優雅典雅な言葉の流れ」を絶妙に生み出し、読者を完虜なきまで魅了する「天才的作家」でもある。

なるほど！と幾度となくその「芥川龍之介の輪郭」を自分なりに大雑把に受け止めることが出来た気もします。また芥川の作品が現在でも広く世界で研究されている事実は多少驚きでもありました。明治以降「国民的作家」である芥川が、我が国の幾世代にも亘る読者に留まることなく、世界の多くの人々に深く影響を与え続けてきたということは、単なる「エキゾチックなジャポニズム」から離れ、ある意味で世界の普遍的な共通価値へ到達していたことに日本人として誇りに感じざるを得ませんでした。

また、著名な「蜘蛛の糸」の始原が「ドイツ」にあるのではとの仮説には、ほとんどの方が意外性と興味をもって耳を傾けられたのではと思います。純粋に日本の古来からの物語の中にその「話し」のルーツがあるものと勝手に思い込んでいた私には、「カラマーゾフの兄弟」にある「一本の葱」の話と共通性があるという解釈に、正に「目からうろこ」でした。

これらの他にも様々な「芥川」に関するお話しを宮坂先生からお聞かせいただきました。
一時間半という限られた時間でしたが、大変貴重なそして内容の濃いご講演であり、心から感謝する次第であります。

それでは、早速今から、近くの図書館にでも出かけて「羅生門」でも一冊借りて来ましょう。

「環境先進国ドイツに学ぶ」
テレビ神奈川取材同行

会員　大久保　明

開局４０周年記念番組（第1面参照）の取材班（番組へ出演する早瀬会長、テレビ神奈川寒河江エグゼクティブプロデューサーを中心として組成）へ同行させて頂きました。日程は6月28日より7月1日まで、下記の訪問先を中心に興味深い多彩な取材になりました。詳細は9月放映で紹介される予定です。

今回の取材に同行して次のような感想を持ちました。日頃見ているテレビ番組の放映時間に対して取材と編集に費やされる時間、労力は予想を大幅に上回るものであり、また極めて貪欲にテーマを掘り下げる努力をしていることです。

一方、ドイツの環境、エネルギー対応に関して今更ながら多くを考えさせられました。ドイツに居住していた経験を持ってはいるが、森林とドイツ人との深い関係、バイオ・マスに対する長年の実践と自信、地域のコミュニティーの大きな役割と市民政治、そしてここにある基本はドイツ人の「自己責任」の哲学である事の再確認をした次第です。

なお、訪問先の選定並びにアポイントメント交渉に当協会ユーデック理事が全面的に協力感謝されております。

<主たる取材先>

・フライブルク大学森林学部(Waldbau-Institut der Fakaltaet fuer Forst-und Umwelt)
・シュヴァルツヴァルトの大規模な製材工場（DOLD社）
・再生エネルギー研究所（KITのInstitut fuer Katalyse forschung und-technologie）
・カールスルーエ・エネルギーの丘
・環境保全団体の農場見学会へ参加
・クラインガルテンを通じての市民の環境と地域コミュニティー活動を見学

ｔｖｋ特別番組
「あすの地球と子どもたち」の案内

横浜日独協会が製作に協力し、早瀬会長がコメンテーターの一人として出演されます番組を会員の皆様にぜひご覧いただきたくご案内致します。

ｔｖｋ（株式会社テレビ神奈川）は、開局４０周年を記念した４０時間特別番組「あすの地球と子どもたち～Play For Happiness」を、９月８日（土）朝７：００から翌日９日２３：００まで、４０時間にわたって放送します。

その中で「環境先進国ドイツに学ぼう」は９月８日午後２：００から５０分間第１部ドイツ各地の取材をVTR中心で、さらにそれを踏まえて第２部午後３：２０から４０分間日本の現状を振り返ります。
番組の詳細はｔｖｋのホームページ
tvk-yokohama.com をご覧ください。

6月映画会

マーラー　君に捧げるアダージョ

会員　　中尾　尚未

6月9日、梅雨らしいお天気の土曜午後、いつもより参加人数も少なく静かな観賞会でした。早瀬会長の記事を読んで是非見たいと思った方も多かったのではないでしょうか。どんなマーラーと妻のアルマが見られるのかと期待して参加しました。映画の構成は複雑で少し難しく、マーラーの周辺の人々（演技者）が証言するように事実を語る場面が所々あり、想像を膨らませ観て行きます。苦しんだ二人の心象風景は美しい自然をたっぷり見せることで表現されていました。

マーラーの交響曲は、これまで少し興味をもって聴いていましたが、この映画で流れる音楽が、交響曲10番、4番、5番だったのは、残念ながら分かりませんでした。全体を流れる音楽はスウェーデン放送交響楽団の美しい演奏でした。

観賞した後、参加会員がそれぞれに感想を話し合いましたが、受け取り方も様々で、見る側の立場や考え方により色々な感想を聞けました。映画の奥深さを物語っているのかもしれません。ある男性は、「私は理系の人間でこのような映画は難しく感じ、因果関係について考えながら観ていた」と話しておられました。ここで表現されている男と女の問題は、どの時代にも通じる悩みを包括しているのではないでしょうか。パートナーの能力さえ自分の為に摘み取っていいのか。それでもアルマはマーラーの求婚に応えてしまったのはなぜか。マーラーといえどもそばにいる妻の苦しみを理解してやれないのはいかがなものか。という感想も聞かれました。

登場人物も後に名を残すクリムト、グロピウス、フロイト、ツェムリンスキー、シェーンベルク、クレンペラー、ブルーノワルターという豪華さでした。

心の中から浮かんでくることに忠実であろうと、苦しみ戦い続けたアルマの感性がそばにあったからこそ、マーラーは創作できたのかもしれない。マーラー未完の交響曲第10番第一楽章はアダージョです。アルマはこの交響曲を補完し公表したとされています。深く考え感じさせられた映画でした。

（懇親会）

横浜日独協会ホームページ
URL:http://jdgy.sub.jp/index.html

行事予定

９月例会
オクトーバーフェスト
日時；　９月２２日（土）　午後４時~７時（予定）
会場；　横浜カントリーアンドアスレチッククラブ
　　横浜市中区矢口台１１－１
　　Tel;045-623-8121 根岸線山手駅より徒歩１５分
会費；　３０００円＋追加飲物実費

１０月例会
講演会；　「第二次世界大戦をめぐる日本人の三つの戦争観
　　―被害者・加害者・アジアの解放―」

講　師；　中島三千男神奈川大学学長
日　時；　１０月１３日（土）午後３時～
会　場；　横浜ワールドポーターズ６階会議室１＋２
　　Tel;045-222-2400 JR桜木町駅より徒歩８分
会　費；　1000円　　・懇親会；　500円

１１月例会
チャリティ・コンサート
日　時；　１１月３日（土）午後６：３０（開場；６：００）
会　場；　大倉山記念館　東急東横線　大倉山駅より徒歩７分
出演者；　遠藤香奈子氏（ヴァイオリン）と
　　遠藤和歌子氏（ピアノ）の二重奏、
　　大島富士子氏（ソプラノ独唱）（予定）
会　費；　3000円 (チャリティ費用を含む)

１２月例会　忘年会/クリスマスパーティ
日　時；　１２月８日（土）午後又は夕方～（詳細未定）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

編集後記

フランクフルト独日協会との調印式に出席し感慨深いものがありました。長年フランクフルトに駐在し多くのドイツ人にお世話になり、微力ではあるものの日独のためにできることはないかとの思いから日独協会の活動に参加して来ました。その過程における大きな出来事でした。

横浜日独協会はこの協力協定によりさまざまな分野での活動の可能性を持っていると確信しています。会員の皆様の経験と能力がを十分に発揮して頂ける環境が整いつつあります。多くの会員の皆様がこの活動に積極的に参加されることを望みます。

９月例会は昨年の忘年会（クリスマスパーティー）と同じ素晴らしい会場でのオクトーバーフェストとなりました。１０月の神奈川大学中島学長の講演は現在に生きる我々に大きな示唆を与えて下さると思います。１１月のチャリティーコンサートは、東日本大震災の被災地の復興の為これまでも横浜日独協会が取り組んできている支援の音楽会です。趣旨に賛同された出演者の皆様に感謝申し上げたいと思います。なお、会場は非常に雰囲気の良い評判の高いホールです。是非ごお楽しみ下さい。

（大久保）